

★心に残っているあのことこのこと◆

思いやり



クリニックふれあい早稲田 院長 大場敏明

正月の清々しさが漂う公園で子供たちが歓声を上げ、そばで若いお母さん達が談笑している。まだ枝は寂しいが、そっと新芽の準備をしている桜の木の下で、往診車を止め、5階建ての階段を登る。

Cさんは、その高い階に娘さんと同居して2年。心臓病、動脈硬化、末梢循環障害などで何回も入院されている。「具合はどう？」と問うと「足が痛く、家事などできず心苦しくて…」と、いつも眉しわを寄せる。「新年の抱負は？」と問うと、すぐに「早くあの世に行けますように」が願いだという。「若い人(娘)に迷惑をかけて申し訳なくて…」と嘆かれる。



Cさんのような『早くお迎え願望』老人は、殆どが世話になっている娘や嫁さん達への思いやりからなのです。それに対して私は、「娘さんを思いやる気持ちが強いですね。でも娘さんも親孝行ができて幸せなのですよ」と。そして、「全く慌てる必要がありませんよ。人は誰でも必ずお迎えが来ます。しかも皆平等にたった一回だけ。ですから精一杯大事にして天寿をまっとうしましょうネ」と。「足は痛いけど、早稲田団地に来て、冬でも足が真っ白になることはなくなって良かったよね、お母さん」とニコニコ顔の娘さん。病気は楽ではなく、なにかと辛いですが、思いやる者同士のご本人とご家族は、温かく幸せである。

◎ 私たちの事業所 ◎

私やあなたの居場所 ～ふれあい倶楽部～

認知症デイサービス「ふれあい倶楽部」に行くには一山越えなければなりません。その山は、2階までの階段をエレベーターがないため階段昇降機はありますが、自前の足で上らなければならないのです。一気に上がる方、途中で息が切れて一休みする方、階段を上る毎に何かボソボソ言う方などなど様々です。職員は事故が起きないように毎回緊張します。



<昇降機を使わず、よいこら よいこら>

階段をクリアし見覚えがある入り口にたどり着くと、元気のある声で「おはよう！！」と声をかける方、とりあえず階段を上るのにエネルギーを使い果たし入口の椅子に座り込み挨拶どころではない方などが顔をだします。大事な事は『ここは私の居場所よ』と感じてもらえるかどうかではないでしょうか。

毎日顔ぶれが違い、男性が多い日、女性が多い日、静かな日、賑やかな日と利用者さんによって雰囲気や一日の流れが違ってきます。その事も大事な事だと思います。



さて、そんな「ふれあい倶楽部」では、お茶を飲む機会も多く、笑いの王者であるAさんに“DO YOU NO ME?” 湯呑だして～と言うと、笑いながらず～っと“DO YOU NO ME!!”を連呼しながら気分良く楽しそうに用意してくれます。ひとあじ違うお茶タイムとなっています。役割があるって大事ですね。

カツラをしているが、その事を隠しているBさん…。スタッフと鬼子ごっこしていると段々とカツラがずれてきて…あらら…。その様子を見ていたCさんが、「ほら！ カツラがずれているよ！ ばれちゃうよ！！ わかる人はわかるのよね」とボソツと言うところが優しいCさんです。いつも驚きと楽しさがあるフロアです。

毎日のお昼作りでは、メニュー決めから始まり、ほぼ全員で買い物に出かけます。買い物先の『スーパーおっかさん』の店内ではメモを見ながら品選びと会計まで出来る方、店員さんにメモを見せて聞く方、スタッフを探す方、買い物より親子連れを見つけて子供に声をかける方等、それぞれ出来る事は違いますがディのフロアでは見せないよそ行きの顔が見られます。

いざ昼食作りが始まると、材料の入った袋を丁寧にハサミで切る方もいれば、力強く自分の歯でビリビリと開けてくれる方。つまみ食いの上手な方。あらら！ 見つかってしまいバツの悪そうな方など様々で賑やかに時間が過ぎていきます。 <食事づくり楽しいよ>



面白おかしくしている間に昼食の完成です。お味は美味しい時、そうじゃない時もあるかなあ～ でもみんなで食べればお・い・し・いの一言です。最近の昼食で印象に残っているのは、Oさんがあつと言う間に作った『かぼちゃの煮物』です。水と醤油と砂糖だけの味付けですが深い格別の味でした。自宅では奥さん任せの家事も「ふれあい倶楽部」ではおおいに力を発揮しています。これも眠っている”力”が開花した事の一つではないでしょうか。クリニックの大場院長も毎日食べに来ます。

これからも楽しい事やビックリする事がある「ふれあい倶楽部」ですが、出会いを大切に、いつでも喜怒哀楽のある “それぞれの生きる姿”が見られるデイサービスを目指していききたいと思います。

(担当；阿部政枝)

共同支援

ホームページの「相談支援センター」が空白の窓から発信の窓に変身します



みなさん こんにちは

ホームページ <http://patio.hippy.jp>

パティオ・ホームページのトップページに「相談支援センター」とあるので、以前にどんな事が書いてあるのかな？と思いきりクリックした方がいたのではないのでしょうか。その扉を開くと、空白の世界があるだけで、ガッカリしたり、なにも考えず閉じたりと…。空白の扉を皆さんへの情報発信や交流する扉へと変身したいと思います。ご期待下さい。

相談支援センターには、障がいのある方やご家族、市の障がい福祉課をはじめとした行政機関、民生委員、病院やクリニック、学校、企業、支援事業所や他市の相談センターなどなど実に多くの方々と連携や情報交換をしながら相談・支援の活動を行っています。相談・支援活動に何らかの役割が果たせるようなものにするため発信していきます。

最近、嬉しい事がありました。それは、西川健一さんの事です。

障がいがあったって 自分らしく暮らしたい

西川健一さんは、事故が原因で脊髄損傷のため車イス生活をおくっています。高次脳機能障害も残りました（この障がいは、脳外傷や脳梗塞などのため脳の気質的な障がいです。例えば人の名前が覚えられないなどの記憶障がいや、物事に集中できなかったり、注意が散漫になる注意障がいなど）。



4月に子供が通っている小学校から授業参観の案内がきました。子供の教室は

<自宅でリハビリ中>

4階でエレベーターなどの設備がありませんが、父親として授業参観に行きたいと思いました。西川さんは早速学校に電話して「授業参観に行きたいが、車イスのまま持ち上げて4階の教室まで上げて欲しい」とお願いしました。その場では、学校の判断が示されませんでした。

学校では返答や対応に困り、市の障がい福祉課に相談し西川さんの背景を知る事が出来ました。その結果、学校の対応はこうでした。授業参観の授業の教室を4階から1階に変更したため授業参観に出席する事が出来ました。Nさんは、ある交流会で「授業参観に来た他の父兄は、どうして1階に変更したのか疑問を持っていたと思います。でも、車イスで来た私がいたのでわかってもらえたかなと思います」と。これが第一歩です。



その話を聞いて私は、学校がその訴えに向き合った結果の配慮も嬉しかったし、西川さんは特別な要求ではないと言いますが、自分の想いや要求をガマンせずに出す事の大切さを学びました。「●●だから仕方がない」ではなく、要求すれば全てが実現するとは限りませんが、声を出す事が大事だし前進の第一歩につながる事を改めて実感しました。

相談支援センターは、障がい者や家族の皆さんに耳と心を傾けながら、地域社会で生活や仕事をするための相談・支援を心がけていきます。 <施設長 長島喜一>

アカシア会のクリニックふれあい早稲田

「10周年記念祝賀会」を開催（5月1日）

その人らしい 生活と人生をささえて

2000年5月1日、「地域に根ざした医療を進めていこう」と、三郷市の早稲田地域に開設されたアカシア会の「クリニックふれあい早稲田」が今年5月1日に10周年を迎え、「開設10周年記念祝賀会」が同日、三郷市文化会館で開かれました。

クリニックでは開設当初から、①地域の皆さんのホーム・ドクターを目指し②高齢者や障害者に安心なクリニックに心がけ③皆さんの健康管理・健康増進を御一緒に一という三つの理念（原文一部割愛）に基づいた医療活動を展開しています。また、認知症に重点を置いた医療・介護を担う「地域的」・「時代的」要請に応えるため、2001年10月に医療法人格を取得し、現在では、医療・介護・福祉各分野で7つの事業所を運営しています。

祝賀会には、東都協議会の仲間や三郷地域の医療・介護・福祉関係者（団体）、三郷わせた健康友の会をはじめとする地域住民の方々など180名を超える方々が出席し、10周年を祝うとともに、今後のさらなる発展を願いました。

祝賀会は、「アンサンブル・りんの音」の林智子さんが奏でるヘルマン・ハーブの演奏で開幕。演奏後、クリニック院長の大場敏明・アカシア会理事長があいさつし、まず法人の歩みが紹介されました。

その後、来賓のあいさつと開院以来10年間、99歳の白寿を迎える今日まで毎週、クリニックの玄関に花を生け続けている辻華水さんに感謝状が贈られ、三郷わせた健康友の会の辻洋会長の音頭による乾杯、しばし歓談となりました。



歓談中は、地域の文化団体などが、ヘルマン・ハーブ演奏▽民謡民舞▽沖縄舞踊▽フラメンコ舞踊▽フラダンス▽日本舞踊▽ダンス▽職員によるロック・ソーランが披露しました。

最後に、アカシア会の職員が一同で「10周年の実績に確信と誇りをもつ


て」という「誓いの言葉が述べられました。

困難な時期に奮闘され既に退職されている職員の方と地域の皆様へ心から感謝を込めて「クリニックふれあい早稲田の開設初日の患者数は7人だった。今では10倍以上になっています。昨年



の新型インフルエンザでは100人を超える日が半月以上に及んだ月もあり地域の信頼を再確認しました。介護事業では、認知症介護として顔なじみの職員と個人に合わせた個別支援、日常生活を通し残された能力を引き出す自立支援、鍵・薬などによる拘束の排除という理念を掲げてやってきました。今後も高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせるよう努力していきます。福祉事業では、パティオを居場所や仲間づくり、就労の出発点とするなど拠りどころとして支えあい、互いを認め合いながら成長していけるパティオにしていきたい。

これからも医療・介護・福祉を一体的に行い、これを原動力に『その人らしい生活と人生をささえて』の理念をもっと豊かに発展させていくことを私たちは約束します。 <事務長 荒木浩二>

<  time ~私の楽しみ~> グループホーム アカシアの家 伊藤優介

え～皆さんこんにちは～。グループホームアカシアの家の伊東優介です。介護職は四年目でアカシアに来てからは二年半になります。今回は僕の趣味をアカシア通信に紹介したいと思います。



自分はお酒が大好きで週3回は飲みに行っています…今日は家でおとなしくしてようといつも心の中では思っているのですが、電話が鳴ると支度していつもの居酒屋にいる自分があります(笑) 最近へパリーゼという肝臓にいい?薬を常用してから飲んでも体調がいい気がします。飲む方にはおすすめですよ～

<まずは乾杯!!>

お酒の話ばかりですが夏場は釣りが趣味でして川釣りに海釣両方好きです。毎年夏は利用者さんと一緒に中川にハゼ釣りに行っています。なかなか釣りに行く機会がないので、利用者さんの楽しそうな顔を見ると、お連れ出来て良かったと心から思います! 更に釣れた時の嬉しそうな顔…釣れた魚はアカシアで飼っていた亀のエサになってしまいました…。一昨年からウナギ釣りに特にはまっています。今年の夏はジェットスキーに挑戦してみようと思っています。冬は毎週の用にスノーボーにっています。仕事に趣味両方楽しみながら生きています。



<ほら! 釣れたよ>



【編集あれや これや】

地球上の生き物で、生きてきた証を文章という形で残す事ができるのが人間だけではないでしょうか。今、ディサービスやグループホーム、小規模多機能を利用している高齢者・家族の皆さんと一緒に『自分史づくり』に取り組んでいます。同じ時代を生活している者として、人生の先輩である方々の生き様を形として残すことは、自分自身の生きている存在と家族への貴重なメッセージになるでしょう。職員にとって生きた社会の歴史を学ぶいい機会にもなり、利用者さんが今まで以上に身近な方となるでしょう。

この取り組みには、数名の方が、この事に共感しボランティアとして参加して下さっているもの嬉しい事です。アカシア会の一つの取り組みとして花を開かせたいと思います。 (長 島)